

◆ 安全（２）

<地震>

- 衣浦大橋の耐震について心配です。朝夕の通勤ラッシュ時には大型トラック含めて車が数珠つなぎとなり、橋が波打つほどです。橋が建設されてから何年も経っているかと思いますが、万一このまま橋が崩れてしまったらと考えるとぞっとします。衣浦大橋の今後の改修又は新規建設についての計画、スケジュール等についての公開を望みます。 (平成22年10月 碧南市 40代女性)

[回答]

- ・ 衣浦大橋は、国道247号と主要地方道西尾知多線が衣浦港を跨ぐ橋梁で、S31年に東に向かう下り線（トラス橋）を、S54年に西に向かう上り線（鋼床版箱桁橋）を建設し、下り線で54年、上り線で32年が経過しています。
- ・ 西三河地域と知多地域を結ぶ交通の要所にあたるため、ご意見のとおり東西の橋詰め交差点では、朝夕の通勤時間帯を中心に渋滞が著しく、県ではこの対策として、西尾知多線の4車線化、関連する交差点の改良、東橋詰め交差点の立体化などの渋滞対策に取り組んできているところです。
- ・ ご意見をいただいた「老朽化」と「耐震」について、県全体の取組を含め、以下のとおりです。

「老朽化対策」について

- ・ 愛知県が管理する道路は約4,600kmで、橋梁は約4,000橋に達しております。
- ・ その多くは、衣浦大橋の下り線橋梁と同じS30年代からS40年代の高度経済成長期に建設しており、これらは建設後40年から50年を経過しつつあり、今後、橋梁全体の高齢化が心配されるところです。
- ・ このため、本県では、これらの重要な資産を確実に維持していくために、保全の在り方を従来の事後保全（※1）から予防保全（※2）に転換し、長く大切に使う長寿命化対策に取り組んでいます。
- ・ 具体的には、4,000橋を全てを対象として、5年周期の定期点検を実施し、それぞれの橋梁の現状と今後の劣化の進行を予測した上で、いつどのような修繕を行うべきかを長寿命化計画として策定し、公表することといたしました。
- ・ H19年度に点検に着手し、現在までに、約2,700橋の点検と約1,700橋の修繕計画の策定を終え、本年度からこの計画に基づいて修繕を進めています。
- ・ 来年度内には全ての作業を完了させ、予防保全を軌道に乗せたいと考えております。

- ・ 衣浦大橋につきましても、この一環として H20 年 1 月に点検を実施しており、交通規制を要する重大な損傷はありませんでした。
- ・ しかし、下り線では経年的な変化による損傷が生じていますので、上部工の塗装や下部工の補修などの修繕工事を計画的に実施していくと共に 5 年毎の定期点検を継続し、橋の安全性を確認してまいります。
- ・ なお上り線につきましては、H19 年～H20 年に橋桁の塗装を終えております。

「耐震対策」について

- ・ この地域は、東海・東南海地震発生不安が高まっています。
- ・ このため、本県では H19. 2 月に「第 2 次あいち地震対策アクションプラン」(H18 年度～H26 年度)を策定し、被害半減を目標に全庁を挙げて対策に取り組んでいます。
- ・ 県が管理する橋梁についても、現在、全県的な取り組みとして「第 2 次あいち地震対策アクションプラン」を策定し、計画期間の 8 年間で 167 橋の耐震補強を実施する計画です。
- ・ 対策に際しては、阪神淡路大震災など既往地震で落橋など重大な被害が発生した橋梁と同じ種類の橋梁への対策を優先的に実施すべきことから、対象橋梁を絞り込み、順次、上部工や下部工の補強を進めています。
- ・ 衣浦大橋では、上り線の橋梁がこれに該当し、H17 年～H19 年度に補強工事を実施しています。
- ・ 下り線橋梁の構造形式には被災事例が少ないため、今回のアクションプランでは該当しておりませんが、今後の橋梁の耐震対策の在り方の中で検討したいと考えております。

「新規建設」について

- ・ 社会資本整備への投資規模の縮小が続く中で、道路や橋梁だけでなく、河川や港湾、下水など、これまでに整備した多くの資産を、長寿命化対策や耐震対策により、まず大切に利活用していくことが、ますます重要になってまいります。
- ・ 衣浦大橋についても、これらの対策により、大切に使っていきたいと考えていますが、今後の地域の社会経済の変化を見据え、中長期的な道路ネットワークの整備の在り方を検討していく中で、橋梁機能の改良や新規建設の必要性についても検討していきたいと考えています。

(参考)

- ※ 1 事後保全 橋梁の部材として必要な機能が消失あるいは消失直前に対策を実施すること（大規模修繕や架け替えなど）
- ※ 2 事後保全 橋梁の部材が致命的な損傷を受ける前に予防的修繕を実施すること

<交通安全>

- 当方、名古屋市に住んでいます。1週間前テレビニュースで愛知県が交通事故死ワースト1と聞きました。最近道路を歩いていて感じる事だが朝から飯屋さんで外に車を置いてビール2～3本飲んでいたり店の人も何も言わない。外から窓ごしに丸見え、信号横断中にも携帯電話のメールをみてたり、パンをかじって片手でハンドル。本を見ながら運転しているのをよく見る。本当に運転免許を持つ資格のない人間が増えてきている。免許資格に人間性を問う試験も必要ではないかとも思う。再考を願いたい。そして罰則は知ってて酒を飲ませている飲食業者や携帯使用して走っているのを警察官が見つけたら、即免許停止させるような強い罰則を望む。そうでもしないと事故は減らないと思う。善良な市民がこんな非常識なドライバーに事故に巻き込まれないよう強く望む。（平成22年4月 名古屋市 50代男性）

〔回答〕 15

貴重なご意見ありがとうございます。

平成21年中、愛知県の交通事故死者数は227人で、前年に比べ49人の減少となり、人身事故件数、負傷者数ともに5年連続で減少したものの、5年連続の交通事故死者数全国ワースト1位という残念な結果となりました。

こうした中、飲酒運転による死亡事故は、昨年中23件（前年比－2件）発生し、本年3月末現在では、4件（前年同期比－4件）発生しており、依然として飲酒運転根絶には至っておりません。

飲酒運転につきましては、昨年6月に行政処分が大幅に強化され、これを機に自治体や飲食関連業界等と連携した広報啓発活動を展開するとともに、街頭での取締活動の強化や、飲酒運転を行った者に酒類を提供した飲食店、同乗者などの責任についても徹底した捜査を行っています。

一方、本県の事故多発の要因として、ドライバーのマナーの悪さがたびたび指摘をされています。

このため、ドライバーに対しては、人優先の交通社会の実現を基本理念とし、免許更新時の各種講習や交通イベント、指導取締等の機会を捉え、交通弱者を思いやる意識の高揚と交通マナー向上のための取り組みを推進しています。

こうした活動を自治体、関係機関・団体や地域の皆様方と引き続き推進し、交通事故による犠牲者を一人でも減少させ、ワースト1位返上に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【警察本部】